

【授業科目】総合臨床実習前演習Ⅱ Comprehensive Pre-Clinical Training Seminar II

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
鈴木真紀子、高崎昭彦、千原猛 星野真理、森啓至、小菅優子 杉浦諭、多次淳一郎、山口央輝 榎本喜彦、大島茂、澤田浩秀 春名誠美、北井真紀子	3年次 前期	必修	1	30	演習	あり	巻末 掲載	可
授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対する フィードバック方法	<p>授業概要／臨床実習は学内講義・実習で学んだ知識・技術がどのように医療現場で応用されているかを把握し、マナー、コミュニケーションを現場から学び、医療人としての資質を向上することを目的としている卒前教育で最も重要なカリキュラムである。本科目は臨床実習前に医療現場における部門別の業務内容や、知識のまとめ、技術についての演習を行い、学内での知識・技術をまとめる。臨床実習に臨むためにクリアが必須である技能修得到達度評価を本科目内で実施する。臨床検査技師業務に必要とされる技術・能力・接遇を総合的に教授する。さらに、訪問看護ステーション実習に向けて、在宅医療について、地域医療における制度から現状について教授する。</p> <p>課題に対するフィードバック方法／提出されたレポートにコメントをつけて返却する。提出された課題について、全体の総評コメントを掲示にて公開する</p>							
授業の 位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー④「幅広い視野で臨床検査を考え、ヘルスケアシステムにおける臨床検査の専門性を理解し、保健・医療・福祉の専門職と連携し、地域社会に貢献できる。」の達成に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が到達 すべき目標)	<p>① 3年次までに習得した臨床検査に関する知識を総合的に理解し説明できる。 ② 「医療人」として臨床実習に臨むために必要な技術を確認する。 ③ 「臨床検査技師」の自覚、コミュニケーション能力の向上を目指す。 ④ 学内基礎実習で学んだ知識を総合し、統括的な検査データ解釈ができる。 ⑤ 在宅医療の現状と役割を説明できる。</p>							
時間外学習に 必要な学修内容 および学習上の助言	<p>3年次までに習得した知識・技能を他分野との関連性をもたせ復習しておく。各領域で知識の再確認をする。 (30分) 技能修得到達度評価マニュアルを読み、シミュレーションをする (30分)。技能修得到達度評価のフィードバックを確認する (30分) 上記例は、1単位30回科目の場合で、予習+復習に必用な時間は、1時間／1回となる。</p> <p>※上記時間については、指定された学修課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間 (2単位15回科目の場合：予習+復習4時間／1回) (1単位15回科目の場合：予習+復習1時間／1回) (1単位8回科目の場合：予習+復習4時間／1回) を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>							
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 第2回～6回 臨床検査技術10分野の演習 10分野 患者接遇 生化学検査 輸血検査 血液検査 微生物検査 生理機能検査 (心電図検査 他) 生理機能検査 (呼吸機能検査 他) 一般検査 顕微鏡操作 病理検査 第7回～11回 技能修得到達度評価及び、筆記試験 第12回 技能到達度評価 総括 第13回 在宅医療ニーズ拡大の現状 第14回 訪問看護の役割と機能 第15回 訪問看護の実際 (演習)</p>						<p>鈴木 高崎 千原 杉浦 鈴木 森 榎本 榎本 小菅 森 澤田 全担当教員 全担当教員 多次 多次 春名、北井、多次</p>	
評価方法 評価基準	<p>技能到達度評価70%、筆記試験 (技能到達度評価内) 30%</p>							
教科書	<p>臨床検査学科『技能修得到達度評価実施マニュアル』 医歯薬出版株式会社 『臨床検査技師臨床実習テキスト』</p>			<p>参考書等</p>		<p>該当科目 医歯薬出版株式会社 『臨床検査学講座』</p>		
学生への メッセージ	<p>臨床実習に臨むためにクリアが必須となる技能修得到達度評価を行う。臨床検査技師業務に必要とされる技術・能力・患者様への接遇を総合的に評価するため、しっかりと事前準備すること。 訪問看護ステーション実習は、臨床検査技師を目指す学生で全国的にも先駆的な取り組みである。重要性を理解し、今後変化する医療体制に対応できる臨床検査技師を目指しましょう。</p>							